

## ～ 平成27年総会での承認事項から ～

総会開催（H27年2月8日（日）由利本荘市「安楽温泉」25名参加）

### 1. 議事

#### 平成26年事業報告

##### 1. 会議

総会 2月23日（日）安楽温泉にて 参加者35名

講演会「ブナ林の動きをさぐる」講師 蒔田明史 秋田県立大学教授（会報15号参照）

役員会 5回開催

##### 2. 自然・史跡観察会

○鳥海山修験の遺跡巡見 6月8日（日）参加者16名（会報16号参照）

市役所→象潟小滝→鉾立→吹浦大物忌神社→蕨岡大物忌神社・鳥海山龍頭寺

○森子大物忌神社・道者道散策 11月9日（日）参加者39名（魁 掲載の効果か）

##### 3. 研修会

日本山岳修験学会研修会への参加 9月13日（土）カダーレ 参加者25名

##### 4. 会報

15号 4月10日発行（総会・記念講演報告）

16号 7月08日発行（巡見報告・修験学会へのお誘い）

### 2. 平成26年度収支決算書

○ 収支決算 歳入決算額 436,134円

歳出決算額 330,889円

差引決算額 105,245円（次年度へ繰り越し）

現在の会員 92名、会費納入者70名（未納22名）

会誌積立金 47万円〔45万円（25年度まで）+2万円（26年度）〕

### 3. 平成27年度事業計画

今年度は鳥海山の動植物に焦点を当てる方針です。＊は4月13日の役員会での決定事項

#### (1) 自然・史跡観察会

・鳥海山の植物現地観察会（＊7月12日吹浦口～御浜～象潟口）担当 茂野正信 会員

#### (2) 研修会

・鳥海山の植物事前研修会（＊5月17日13:30～15:00 西目シーガル）茂野正信 会員

・講演会「熊との出会い」（10月）加藤明見氏 秋田県写真協会会長

＊6月1日～30日西目シーガルにて加藤明見氏の写真展開催予定

＊7月14日（火）鳥海山火合わせ神事拝観（飛島泊）

鳥海山頂、御浜、西浜、飛島、宮海で火を焚き、その年の農作物の作況を占う神事。

鳥海山頂上の大物忌神社は五穀守護神、飛島の小物忌神社は五穀風神として信仰。

#### (3) 会報・インターネット(ホームページ)の充実

・事業などの連絡のみならず、研修内容等を掲載するなど定期的な会報の発刊に努める。

なお、ホームページ掲示板のパスワード→ 2236（半角で）

(4) 会誌の編集

・市教育委員会の「史跡鳥海山の報告書」と重複しないよう構成案を検討する。

(5) 会議

・役員会のあり方を検討する。年5回予定

(6) その他 修験学会について 佐々田亨三顧問から

森子集落の多大な協力への謝辞。素晴らしい写真展への謝辞。

国文祭では獅子舞を披露、皇太子は獅子頭・舞・後継者の3点に注目されていた。

9/18・19 和文化の行事、カダーレで。詳細は後日。山折哲雄氏の講演会は決定。

## 4. 平成27年収支予算書

|        |    |          |
|--------|----|----------|
| ○ 収支予算 | 歳入 | 401,000円 |
|        | 歳出 | 401,000円 |
|        |    | 0円       |

### 歳入

| 項目    | 本年度予算額  | 前年度予算額  | 増減      | 説明   |
|-------|---------|---------|---------|--|
| 繰越金   | 105,245 | 86,126  | 19,119  | 前年度の繰越金  |
| 会費    | 250,000 | 200,000 | 50,000  | 年会費 170,000 (2,000円×85人)<br>総会懇親会費 80,000 (4千円×17人+3千円×4人) |
| 研修参加費 | 40,000  | 0       | 40,000  | 自然史跡観察会等40,000円(2,000円×20人)<br>今回新たに追加した項目                 |
| 寄付金   | 5,000   | 5,000   | 0       | 各種ご奉仕等   |
| 雑入    | 755     | 50,874  | △50,119 | 預金利息等  |
| 計     | 401,000 | 342,000 | 59,000  |  |

### 歳出

| 項目  | 本年度予算額  | 前年度予算額  | 増減     | 説明   |
|-----|---------|---------|--------|--|
| 会議費 | 100,000 | 100,000 | 0      | 総会等会議  |
| 事業費 | 160,000 | 150,000 | 10,000 | 総会時講師謝金 30,000円<br>自然史跡観察会開催経費(バス借り上げ・保険・資料他) 80,000円<br>秋季研修会開催経費 50,000円 |
| 積立金 | 50,000  | 20,000  | 30,000 | 会誌積立金  |
| 通信費 | 65,000  | 55,000  | 10,000 | 葉書切手代・HPレンタルサーバー代・振込手数料  |
| 事務費 | 15,000  | 17,000  | △2,000 | 封筒・プリンタインク他  |
| 雑費  | 11,000  | 0       | 11,000 | 今回新たに追加した項目  |
| 計   | 401,000 | 342,000 | 59,000 |  |

(参考)

会誌積立金予算 47万円(26年度まで)+5万円(27年度)=52万円

## 質疑応答

Q：懇親会の急な欠席で会費の取り扱いは？

A：仕方のないこと。役員で協議します。

Q：会誌の中身は？

A：会員の意見を聞いて作成します。

## 記念講演

小川会長による講師紹介：天寿酒造七代目の社長。当会副会長。毎回、懇親会にお酒を頂戴している、など。

### 演題 「日本酒の話」

講師 天寿酒造(株)代表取締役 大井建史 氏

(講演要旨)

30年前の矢島の消費量はビール40ℓ/人・年、酒34ℓ/人・年で東京の3倍、今はその1/5で激減。6～8%を輸出している。和食ブーム(米国では定着)のおかげ。明治の初め、大工の手間賃では酒1升を買えなかった。いま日本酒は1升3千円でも「ほう〜」といわれる。何とかしたい。

アジアの酒は麴(コウジ)が特徴で、酒は米の澱粉を麴が糖化し、酵母がそれを食ってアルコール発酵する。ワインは葡萄の出来で決まるが、日本酒は米の出来に合わせ蔵人が米の蒸し方などを変える。経験による高度な技術で造ってきた。ワインは13度ほどだが、日本酒は20度まで出せる。

農業の六次化をいわれているが、酒は原料からすべて地元産でやっている。パストツールがワインの熱殺菌を発表する200年前

から日本では経験的に熱殺菌をやっていた。資生堂の美白化粧品は酒の麴が出すアミノ酸を元にしてている。元秋田大医学部の滝沢先生は酒の制ガン効果を発表している。

酒米では兵庫県の山田錦が最高といわれているが、「天寿酒米研究会」という名前で30年前から酒造好適米を研究し、山田錦を超える米を作ろうとしている。1月30日に発表があった「インターナショナル酒チャレンジコンテスト大吟醸の部」で金賞が5点あり、トップに地元契約栽培の美山錦の酒が選ばれ(山田錦の酒も5点に入った)高円宮妃からの授与に感動する授賞式だった。地元米で一番になったことが嬉しかった。

日本酒の味のピークは温度により2つ3つある。燗酒の温度は5℃きざみに、30℃：日向燗、35℃：人肌燗、40℃：ぬる燗、45℃：上燗、50℃：熱燗、55℃：とびきり燗、60℃を超えるのはゴボ燗…焦げる(カラメル臭、「早く帰れ」というとき)60℃を超えてはいけない。

冷酒でも飲むとき、酒のうまみが出る温度13～15℃が必要。冷蔵庫から出してすぐはまずい。少し温度を上げてから少し下げるとおいしい。43℃→40℃(温めておいて氷水にピューとつける)で丸くなる。香りの高い酒は片口に移して空気にさらすと味が開いて、香りが立っておいしくなる。ワインのデキャンタと同じ。

盃は薄いほど酒は旨い。厚いぐい呑みと薄いグラスで同じ酒を飲んでみれば違いが分かる。オーストリアのリーデルというグラスメーカーでは産地に合わせた形のグラスをつくる。日本酒の12社で大吟醸グラスを作ってもらった。

酒の「さ」は神様のこと。サツキは田植え、サカは神が降りてくるところ、サクラは神が居ますところ。「け」は供物のこと。神に願うときは、「さ」に対する最高の供物でなければいけない。「そういうわけで乾杯は是非、お酒でしましょう。」

Q：酒の燗がいいのはどんな酒ですか？

A：生酒や吟醸酒は香りが本命、燗をしたらもったいない。逆に火入れした酒は燗がいい。



## 史跡鳥海山「森子大物忌神社道者道」散策実施



今年度の当会事業、自然・史跡観察会の第2回目として、11月9日に鳥海山の会国指定史跡「森子大物忌神社道者道」散策を実施しました。参加者は39名で、遠くは秋田市から参加された方もいました。

国指定史跡鳥海山森子大物忌神社については、平成21年に当会事業として現地研修会を行ったことがあり、また国指定史跡としてパンフレット等で詳しく説明されており、史跡の詳細については省略し、当日の観察会の様子について紹介します。

当日は曇り空ながらも風も無く、紅葉も今日で見納めといった日でした。会長の開会の挨拶の後、地元森子神社氏子総代で当会副会長でもある多田厚氏の案内で、約三百段の急峻な石段を登り始めました。喘ぎ喘ぎ石段を登りながら、多田氏からここが鳥海山滝沢口の起点で、また滝沢修験組織の活動拠点であり、また滝沢修験の鳥海山遙拝所として大物忌の神を祭る聖地であったこと、4月の例大祭では米俵十俵分といわれる重さの御神輿を氏子が一気にこの石段を担ぎ上げることなど、要所要所で説明をして頂きました。



社殿の中に入り、宮司さんより神社の由来、歴史、ご神体、お祭りの様子などの説明をいただき、この神社に祭られている薬師三尊像と共に安置されている十二神将を見せて頂くことができ、参加者一同その素晴らしさに、驚嘆しました。

道者道(登拝道)は社殿の左手にあり、かつてここから由利原、花立、二合目木境をとおり鳥海山頂に至る滝沢口の起点となっていました。参加者は、この道者道の急坂をしばらく登り、道者から導銭の寄進を受けた場所「小屋掛けの松」跡を経て、「鳥海山様」と呼ばれている鳥海山の山容に似た大きな石がある八乙女山頂に達しました。

以前の観察会ではここが終点だったのですが、今回はもっと上の鳥海山展望台まで足を延ばしました。展望台までの道は、地元森子集落の皆さんが階段等を敷設し整備して下さったもので、大変歩きやすく、つづら折りの急な坂道も安心して登ることができました。この日の展望台からは、前景の山々の紅葉の奥に鳥海山がくっきり見え、参加者はこの眺めで登りの疲れが一気に解消されました。

